

## 令和2年度マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会 議事録

日時：令和3年2月12日（金）

10:00～12:00

ZoomによるWEB会議

### 1 開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から、「令和2年度マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会」を開催いたします。

私は、司会を務めさせていただきます、静岡県経済産業部 産業革新局長の村松と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

会議に先立ちまして、静岡県経済産業部長の天野から御挨拶申し上げます。

（天野 静岡県経済産業部長）

静岡県経済産業部長の天野でございます。

本日は、「令和2年度 マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会」の開催に当たり、大学・研究機関、企業、経済団体、産業支援機関などから、多くの委員の皆様にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本委員会は、「マリンオープンイノベーションプロジェクト第1次戦略計画」に基づき、静岡県が取り組んでいる「MaOIプロジェクト」の進捗評価を行うことを目的として、開催するものであります。

MaOIプロジェクトにつきましては、後ほど事務局から詳しく御説明申し上げますが、昨年11月26日に、プロジェクトの拠点施設となる「MaOI-PARC」が開所いたしました。

このコロナ禍の中、当初計画から大きな遅れもなく、プロジェクトの推進基盤を整えることができましたことは、ひとえに、計画検討段階から適切な御指導を頂いた委員の皆様のおかげと、心より御礼を申し上げます。

このMaOI-PARCの開所を皮切りに、プロジェクトは、いわゆる「立ち上げ」の段階から、「本格稼働」の段階へと、新たなステージを迎えることとなります。

来年度は、MaOI機構のコーディネーターによる企業訪問や新たな助成制度など、事業化の支援を強化し「成果の早期創出」に取り組むとともに、海洋データプラットフォーム「BISHOP」を核とした「データ駆動型の研究開発」に注力してまいります。

また、国内外に広く情報発信を行い、「MaOIフォーラム」や「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の会員獲得に繋げ、「海洋」をテーマにしたネットワークの拡大にも取り組んでまいります。

本日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン形式による開催となっております。

例年と違う形での開催となりますが、実り多い会議となりますよう、委員の皆様には、今後に向け、ぜひ忌憚のない御意見を頂きたく存じます。限られた時間ではありますが、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

（事務局）

続きまして、委員の御紹介です。

大変申し訳ございませんが、お時間の都合により、画面上及びお送りさせていただきました委員名簿にての御紹介とさせていただきます、今回異動等により、新たに委員になられた方々のみ御

紹介させていただきます。

- ・静岡県漁業協同組合連合会の高瀬 指導部長 兼 漁業振興課長です。
- ・静岡県水産加工業協同組合連合会の増元 専務理事は、本日欠席でございます。
- ・株式会社鈴与総合研究所の中村 管理部長です。
- ・清水銀行の正村 経営企画部 企画担当部長です。
- ・しずおか焼津信用金庫の岩崎 理事・業務サポート部長です。
- ・静岡県産業振興財団の池田 副理事長 兼 専務理事です。
- ・静岡県産業振興財団フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの望月 センター長です。

以上となります。それでは、議事に移ります。

これ以降の議事進行につきましては、橋本委員長をお願いいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

それでは委員長を仰せつかっております橋本でございます。本日はよろしくをお願いいたします。

ただ今、天野様からご説明がございましたように、プロジェクトは一昨年キックオフして順調にこれまで推移してございます。昨年の昨年11月には清水でMaOI-PARCが無事開設されまして、お披露目も知事の依頼を受けまして出席したところでございます。

私も見せていただきまして、非常に立派な設備が入ってまして、具体的な研究も始まっているということございまして、これからの県のご尽力で、様々な今日ご説明いただきますように、県の方あるいはアカデミアの方のご協力いただきました色々なプロジェクトがすでに始まっていて、若干成果も出つつあるというところでございますので、立ち上がりとして順調でございますけれども、これから今回本格的にプロジェクトが動くに当たりまして、今日ご審議いただくような様々な今後の課題とございますか、方向性についてですね、大きい変化は来年度ございませぬけれども、引き続きこれを拡大していくという意味では、大事な節目でございますので、ぜひ忌憚のないご意見を皆様からいただければと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、次第により、議事を進めます。①令和2年度プロジェクト進捗評価について、②プロジェクト達成目標の追加設定について、を一括して事務局から説明をお願いします。

## 2 議 事

### (1) 令和2年度プロジェクト進捗評価について

(事務局)

はじめに、1つ目の議事、「令和2年度プロジェクト進捗評価」について、説明いたします。

3ページは、マリンバイオ産業振興ビジョンに掲げた、プロジェクト当初の事業展開イメージです。中段に示したとおり、重点テーマを「健康長寿」とし、短中期で成果を目指す産業分野として、「水産」、「食品」、長期視点で取り組む産業分野として、「創薬」、「環境、エネルギーなど」を設定しました。また、プロジェクトを進めるため、資料の左下、「知の集積とオープンイノベーションの拠点形成」から、左上、「人材育成、地域づくり、世界発信」まで、6つの戦略を掲げました。

4ページは、これまでの事業実績です。主なものを、説明します。令和元年度は、7月にプロジェクトの推進組織となる「MaOI機構」を設立しました。また、シーズ創出研究や事業化促進助成制度を創設しました。2月には、「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」を設立し、3月には、「MaOIプロジェクト第1次戦略計画」を策定しました。令和2年度は、8月に、新たに「海

洋技術開発促進助成」制度を創設しました。また11月に、拠点施設となる「MaOI-PARC」の開所や、静岡県立大学との連携協定の締結などを行いました。この2年間で、着実に、プロジェクトを立ち上げ、進めてきたところです。

5ページ、ここからは、第1次戦略計画の柱ごとに、PDCAサイクルを回し、これまでの戦略の進捗評価と、来年度以降に向けた方向性を説明してまいります。はじめに、戦略Ⅰ「「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成」です。資料の上段、戦略計画の内容（Plan）は、第1次戦略計画の内容を転記しておりますので、説明は省略します。取組実績（Do）ですが、MaOIフォーラムの運営・会員拡大や、セミナーの開催等に取り組みました。その結果、令和3年1月末時点のMaOIフォーラムの会員数は93会員になっています。進捗評価（Check）ですが、フォーラム会員数は、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な企業訪問等ができなかった等の理由により、目標に対して、進捗が遅れがあります。来年度以降に向けて（Action）は、フォーラムのメリットであるMaOI-PARCの施設利用やコーディネーターの伴走支援など、プロジェクトの有益性を企業に訴求し、フォーラムの会員拡大等に努めてまいります。

6ページは、取組実績の紹介です。左側は、MaOIフォーラムセミナーの開催状況です。令和2年度は、4回開催する予定です。右側は、MaOI-PARCの開所式に合わせて行った静岡県と静岡県立大学との連携協定の締結式の様子です。松永理事長の立会いの下、川勝知事と鬼頭学長が、協定にサインをいたしました。

次に、7ページ、戦略Ⅱ「オープンデータ・オープンサイエンスの推進」です。取組実績ですが、令和3年度の公開に向けて、駿河湾等の様々なデータを収集・活用するデータプラットフォーム「BISHOP」の構築を進めました。また、フォーラム会員が利用できる「海洋微生物ライブラリー」を整備しております。進捗評価ですが、概ね順調に取組が進んでいると考えております。来年度以降に向けては、データポリシーや運用ルールの整備を進め、早期にBISHOPや海洋微生物ライブラリーの運用を開始し、利用促進に取り組んでまいります。

8ページは、「BISHOP」の概要です。MaOI機構が中心となって、県の試験研究機関、大学等と共同研究した成果をデータプラットフォーム「BISHOP」に蓄積し、オープンデータとして活用します。資料の中段に記載してあるとおり、本年度中に「海況データ」、「海洋微生物ライブラリー」を公開し、中長期的には「環境DNA・メタゲノム」や「最先端海洋研究データ」を整備するなど、産業振興や環境保全への利活用を進めてまいります。

9ページは、海洋微生物ライブラリーの概要です。海洋由来の微生物を活用した県内企業の製品開発等を促進するため、MaOI-PARCにライブラリーを整備します。資料の左側がスキームです。機構、県の研究所、大学等が所有する菌株などを、ライブラリーに登録し、フォーラム会員に斡旋・提供します。資料の右側が、ライブラリーの特徴です。大きく2点あります。1点目は、MaOI機構の菌株だけでなく、他機関の保有する菌株も登録し、ライブラリーの充実を図ります。MaOI機構が保有する株は、菌株の保管から分譲まで行い、他機関が保有する株は、データのみ管理し、各保有機関が分譲します。2点目は、菌株の有用性をデータで可視化します。MaOI保有株に対して「統合適正試験」を実施し、有用性を可視化することにより、利用者が、データに基づき、総合的に判断することを可能とします。

次に、10ページの戦略Ⅲ「拠点・プラットフォームの整備と活用」です。取組実績ですが、昨年11月26日、清水港隣接地に、プロジェクト中核拠点施設「MaOI-PARC」を整備、開所いたしました。また、共同研究や連携会議への参加を通じて、県の試験研究機関や先端産業創出プロジェクトとの連携・協力を進めています。進捗評価ですが、概ね順調に取組が進んでいると考えております。来年度以降に向けては、MaOI-PARCの施設利用を促進するとともに、実証フィールドとなる温水利用研究センター沼津分場の量産実証施設の設計を進めるなど、拠点機能の強化を図ってまいります。

11ページは、MaOI-PARCの概要です。大学や研究機関、企業が利用できる共用ラボ、連携研究室、交流スペースなどを整備するとともに、データプラットフォーム「BISHOP」を構築し、ネットワーク型の拠点形成を目指してまいります。

12ページは、MaOI-PARC共同ラボの概要です。マリンバイオテクノロジー研究を主な目的とした実験室で、MaOIフォーラムの会員が利用できるスペースです。機構の研究スタッフから技術指導を受けながら、微生物の培養やゲノム解析等の研究利用が可能です。

次に、資料13ページ戦略IV「研究開発領域の重点化」です。取組実績ですが、産業振興に繋がる本県独自のシーズ創出を目指す研究など、プロジェクトにおける共同研究等件数は、累計で22件となっており、令和2年度の目標値10件を上回っています。また、海洋プラスチックなど、環境分野における国際的な課題にも積極的に取り組んでいます。進捗評価ですが、概ね順調に取組が進んでいると考えております。来年度以降に向けては、県とMaOI機構が連携し、シーズ創出研究の新たなテーマの掘り起こしに努めてまいります。

14ページは、シーズ創出研究委託の概要です。本県独自の技術シーズを創出するため、公募型研究委託を実施しています。令和元年度に5件、令和2年度に、新たに2件採択いたしました。

15ページは、県の試験研究機関によるマリンバイオ研究の概要です。水産・海洋技術研究所をはじめ、5つの県の試験研究機関と連携し、海洋微生物の収集、選抜を行い、企業の商品化に繋がります。

次に、16ページ、戦略V「産学官金連携による産業応用の推進」です。取組実績ですが、県内企業等の事業化の取組を支援する「事業化促進助成」や、工学系・情報系の海洋技術開発を支援する「海洋技術開発促進助成」、MaOI機構のコーディネーターによるマッチング支援などにより、産業応用を促進しています。この結果、プロジェクト事業化件数は、累計2件で、令和2年度の目標を上回るペースで、事業化が進んでいます。進捗評価ですが、概ね順調に取組が進んでいると考えております。来年度以降に向けては、県内企業が事業化に踏み出す際の可能性調査を支援する制度を新たに創設する予定であり、事業化支援を本格化してまいります。

17ページは、事業化促進助成、海洋技術開発促進助成の概要です。事業化促進助成については、令和元年度に5件、令和2年度に1件採択をしました。このうちの2件が、具体的な事業化成果につながっています。海洋技術開発促進助成については、令和2年度に1件採択しています。

18ページは、MaOIプロジェクトの事業化成果の概要です。1つ目は、県産アカモクとマグロを使用した高保湿化粧水です。静岡県産のアカモクから抽出した保湿成分を豊富に含むエキスに、静岡県で水揚げされたマグロから抽出した美容成分であるコラーゲン・エラスチンを配合した高保湿化粧水です。主に、香港などの海外市場で輸出販売されています。2つ目は、海洋微生物を活用した鯖発酵調味料によるハラール対応鯖ラーメンです。鯖を練りこんだ麺と、海洋由来の微生物を活用した鯖内臓発酵エキスを用いたスープによるハラール対応ラーメンです。現在、EU、米国、ベトナムなどでテスト販売を行っており、今後、本格的に、製造・販売に取り組む予定です。

19ページは、MaOI機構のコーディネーターによる事業化支援の取組です。新商品開発、事業開拓などに積極的な企業を中心に、金融機関等と連携して訪問しています。具体的な企業マッチングの事例として、規格外製品の病院食、介護食への利用や、養殖業者と飼料会社、飼料開発ベンチャーをマッチングして、養殖魚向けの新規・高付加価値飼料の研究開発につなげたケースなどがあります。

次に、20ページ、戦略VI「人材育成・地域づくり・世界発信」です。取組実績ですが、昨年11月26日、県と静岡県立大学との間で、人材育成をはじめ、様々な分野で相互協力を図っていく連携協定を締結いたしました。また、「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の活動や、海外の海洋産業クラスターとの情報交換などにより、「海洋」をテーマとした地域づくりに取

り組んでいます。進捗評価ですが、概ね順調に取組が進んでいると考えております。来年度以降に向けては、大学等と連携した専門人材育成の仕組みの構築を進めるとともに、ローカルとグローバルの両面で、ネットワークの強化・拡大を図ってまいります。

21ページは、美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会の概要です。世界に誇る静岡の海を未来に引き継ぐため、個人、企業、団体等の連携と協働を推進することを目的に設立いたしました。MaOI機構が事務局を担い、1月末時点で、会員数は146となっています。海の森づくり体験教室や、子ども達に静岡の海の大切さを啓発する冊子の発行、静岡の海に関する実践活動に取り組むパートナーの活動支援などを通じて、海洋をテーマとしたネットワークや地域づくりに取り組んでいます。

22ページは、海外Blue Techクラスターとの連携です。アメリカ・サンディエゴで毎年開催される海洋産業クラスターの国際会議「Blue Tech Week」に参加しています。海外の先進的な海洋産業のクラスターや、研究機関等と情報交換し、国際的な連携を推進しています。

23ページは、これまでの事業の進捗を反映して、プロジェクトの事業展開イメージを、再整理したものです。資料左の6つの戦略はそのままに、「BISHOP」の仕組みや「事業化可能性調査の支援制度」などを新たに位置付けています。ご参考にしていただければと思います。

## (2) プロジェクト達成目標の追加設定について

(事務局)

続いて、2つ目の議事「プロジェクト達成目標の追加設定」について、説明します。

昨年度策定した第1次戦略計画では、令和6年度までの5つの達成目標のうち、2つの目標については、令和2年度に策定すると定められていますので、今回、設定するものです。表の中で、上から2段目「MaOI海洋生物資源ライブラリー利用件数」は、令和6年度時点で年間30件、上から3段目「MaOIデータベース利用件数」は、年間6,200ページビューを目標値として設定したいと考えています。その考え方ですが、表の下に記載してあるとおり、ライブラリー利用件数については、先行事例である県沼津工業技術支援センターの「しずおか有用微生物ライブラリー」の年間利用件数を基礎に、設定しました。

データベース利用件数については、「BISHOP」を構成する海洋観測データ、公共用水域水質データ、微生物ライブラリーの3つのデータベースについて、類似データベース等のアクセス件数を基礎に、設定しました。

以上で、説明を終わります。

## 2 意見交換

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

資料を簡単に報告いただきましたので、また資料を見ながらご意見、ご質問をしていただきたいと思います。口火を切るのが大変かなと思いますので、大変恐縮ですけど、このプロジェクトをここまでくるにあたって、この中の委員の早稲田大学の竹山先生、矢澤先生、笹川平和財団の今回理事長になられた角南先生には、非常に大所高所からご指導をいただいております。角南委員から全体について、コメントご発言お願いできますでしょうか。

(笹川平和財団理事長 角南篤)

はい。私どもも非常に期待をしております。今、橋本先生からもお話がありました「国連海洋科学の10年」が今年からスタートするということで、日本政府も国内委員会を作って、世界に向けて日本の取り組みを発信していこうということで、今ベストプラクティス集を作らせ

ていただいているところですが、その中でもこのMaOIの取組をご紹介させていただいております。今後は、プラットフォームを活用しながら世界に向けてこのMaOIの取組を、特にBISHOPのようなデータベースなど非常に興味がありますが、これを一つの求心力としていろんな国内外の研究を引っ張ってくるような、そういう形で発展をしていくことを大いに期待しております。私どもとしては、そういう意味で国内外に向けた発信のプラットフォームとして、いろいろな形で我々の財団の活動を活用していただければと思っています。

それから、将来的には、今コロナ禍で人の移動がなかなかできないということもありますけれども、今後人の移動が徐々に始まってくると、やはり直接MaOIの方に出向いて意見交換を行うなど、様々なプロジェクトを立てていく必要があると思うんですね。そういうところも含めて、我々の財団との連携をぜひ活用していただければと思っています。

それから政策提言についても、この駿河湾の管理については世界からの関心もいま非常に高いと思うんですね。ですからMaOIの取組を世界に向けて一つのモデルケースにしていく際に、いろいろな形で一緒にできればいいかなと思っていますので、よろしくお願いします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

特に先生のところは非常に政府とのパイプも強くて、海外とのいろんな交流もございまして、MaOIの立ち上げにはですね、特に先ほどご説明のあったBlue Tech クラスタへも我々ご紹介をいただいて、そこから一段と高みに私どもも今来ているという気がしますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。では次に、竹山先生に冒頭で申し訳ございませんけれども、コメントをお願いします。

(早稲田大学 理工学術院 教授 竹山春子)

どうもありがとうございます。資料とつてもきれいにまとめていただいているとわかりやすく、現状が理解できました。そのMaOIとしてですね、いろんな多角的なミッションがあって、これを一つずつきちんとこなしていくということと、この静岡県っていうところで、非常に静岡って面白い県だなっていつも思ってるんですけども、いろんな分野のところがありますし、このAOIもあって、なんか農業と水産業っていうのが、新しい今までの1次産業から新しい次元と一緒に、協調的にやれるんじゃないかなっていうところが非常に期待している部分もあるんですけども。外との連携ですね、県の中での連携と外部との連携、いろんなステージがあると思うんですけど、AOIさんの方は多分、関係者が委員の中に入ってらっしゃると思うんですけども、有機的に一緒にやれるような形っていうのは、今後どのようにしていくのかっていう質問があるんですが、その点どうでしょう橋本先生。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい。おっしゃる通りですね、AOIが私ども、MaOIの先輩になるわけで、理研さんや慶応大学さんがですね、非常にいい研究をされていると聞いています。せっかくなので、今日岩城専務理事来られていますね。もし何か、今のお話でコメントございましたら、お願いしてよろしいでしょうか。

(アグリオープンイノベーション機構 専務理事兼事務局長 岩城徹雄)

AOI機構、岩城です。今ご紹介いただきました。実はつい2、3週間前、MaOI-PARCのですね、内覧会ということで中を見させていただいて、非常に充実した施設ができているなという感じを得ました。

これは特にMaOI機構さんとだけではないのですが、県の方で音頭をとっていただいて、フ

オルマ、フーズ、いろんな産業支援機関がですね、情報交換をして、連携して支援にあたらうという体制づくりもどんどん進んでおりますし、県の方でも企業さんが受発注を受けられるような、そういう企業紹介のホームページを設けていただいたりして、その中にどの産業支援機関と繋がっているかというのもいれてもらって、いろんな多角的な面から企業の支援ができるようにということで、体制を組んでいただいています。その先ですね、研究開発なりをですね、もっと進めていけるようにということで、今竹山先生からご紹介いただきましたけれど、実は竹山先生がプロジェクトマネージャになりまして、ムーンショット計画というのを国にも採択されまして、その中にMaOI機構さん、それから私どものAOI機構もですね、末席ですけれども、一緒に入れていただきまして、大きな研究開発に加わっていきこうというところですね、先生のご尽力いただいてですね、一緒にできるような素地を作っていただいたということなものですから、今後そういうものも利用しつつですね、農と水、これまでどちらかという、バラバラにという言い方ちょっと変ですけど、そちらはそちら、こちらはこちら、みたいな感じがあったんですけど、案件によっては当然協調してやらなければならない案件が多いと思いますので、その辺はしっかり連携を取ってやっていきたいというふうに思います。そんなことでよろしいでしょうかね。

それからすいません、さっきちょっと私手を挙げさせていただいてましてですね。質問させていただいてよろしいでしょうか。議題の2の方ですね、目標の追加設定ということで、海洋生物資源利用件数であるとかデータベース利用件数をあげていただいているのは、これ非常にいいと思うんですけど、要はその先ですね、例えばその生物資源を利用して具体的に成果がどんな事業化ができたのか、あるいはどんな研究ができて、どんな論文がかかれたのか、もう一つその先ですね、ものが必要になるんじゃないかなと思ったんですけど、その辺は、その件数を出すのは難しいので、とりあえずこの利用件数に留めておこうというのか、あるいは次のステップとして、それを利用した研究開発が何本出るとか、そういうところまで持っているのか、その辺の考え方はどう整理されているのか伺いたいなと思ひまして先ほど手を挙げた次第です。よろしくをお願いします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。あとで事務局からも回答いただけたと思いますが、この考え方はですね、まずは当面、今回の最初の第一期はですね、このBISHOPの立ち上げ、だけではなくてですね、BISHOPの立ち上げプラスそのデータベースの実際の活用ということについて、頑張っていこうということでございまして、その先の今おっしゃったようなプロジェクトになっていくというのは、かなりハードルが高いと思うんですけどもちろんスコープに入っているというふうに、理解しております。何か事務局の方で追加のご説明ありましたらお願いできますでしょうか。

(事務局)

それでは事務局から補足をいたします。まず一つ、指標は、今回説明したもの以外に他の三つありまして、例えばプロジェクトの事業化件数であるとか、あるいはプロジェクトにおける共同研究等件数とか、そういったもので繋がるものについては数値目標として補足ができるかと思ひます。また目標に掲げてない部分についても把握はしていきたいと考えております。以上であります。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい。ありがとうございます。いずれにしろ、このBISHOPはかなり地味で基礎的な話ではあ

りますけれども、このMaOIプロジェクトの最終目標が産業振興でございますので、最後にそこに役に立たないといけないので、その道筋はですね、これから議論してちゃんと作っていくべきだと思っておりますし、また先生方の、地元の方々のご協力をいただいて、何とかもうちょっと具体的なものに、なればいいなと思っております。

(アグリオープンイノベーション機構 専務理事兼事務局長 岩城徹雄)

はい、ありがとうございます、よくわかりました。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

他にご質問ご意見はございますでしょうか。もしなければ、またご指名させていただきますけど。まだ、プロジェクトに本格的に入っていない大学あるいは少し関わっていただいている大学とかございますので、アカデミアから何人かですね。ご意見なりご質問でも結構ですけれども、頂戴したいと思いますが、まず海洋大の吉崎先生は今日こられていますよね、海洋大とかJAMSTECとかの先生方にお聞きしたいと思います。まず吉崎先生コメントとかお願いできますか。

(東京海洋大学 学術研究院 教授 吉崎悟朗)

ありがとうございます。一つ今お聞きして思ったことはですね、この戦略の2のところに、BISHOPのコンソーシアムから静岡県の産業までの流れの図がございますけれども、私すごく思ったことは、ここですね、いわゆるビッグデータを扱うようなサイエンスに関しては、うまくシステムが構築できたのかなというふうに思ったんですけども、水産業という出口にフォーカスをして考えた場合に、やはり魚そのものの研究というのを何とか頑張らなくちゃいけないということをしごく思いました。私この中のキンメダイの種苗生産システムのことで少し参加させていただいておりますけれども、魚の研究となるとですね、実はその成熟したキンメダイがなかなか取れないという問題も、我々水産・海洋技術研究所と一緒にやらせていただいて直面しております、そういうところっていうのは、実は結構置き去りにされている部分もあるのかなということを思いました。そういう意味ではですね、水産業はやはり魚が主役ですので、丸ごとの魚を使った研究を何とかこういうところに載せるようなシステムというか、仕組みというものを、なにかMaOIの方と一緒にですね、何かうまく考えていければいいなということを考えながらお話をお聞きしました。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい。ありがとうございます。ぜひそういうふうに進めていただきたいと思います。魚のお話がでたので、今日は水産研究・教育機構の石原グループ長にもご参加いただいておりますが、石原先生から何かコメントありますか。

(水産研究・教育機構 中央水産研究所 石原賢司)

水産研究・教育機構の石原でございます。いろいろご説明ありがとうございました。お聞きしてちょうど私、一昨日にMaOI-PARCの方にお邪魔させていただいて、中も見学させていただきました。決して大きくはないですけど非常にコンパクトにまとまっていて使いやすそうな研究施設だなと思ったんですけども。そうですね、皆様おっしゃられているとおり、やっぱり5年10年末永く続くためには、やっぱり地元の支持が非常に大切だなと思いますので、そういう静岡県に貢献できるような存在に、なっていただきたいというふうに願っております。すいませんありがとうございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございました。地元という意味ではアカデミアでは今日、東海大の齋藤先生来ていただきますけれども、齋藤先生からなにかお話しいただけますでしょうか。

(東海大学大学院 海洋学研究科 研究科長 齋藤寛)

はい。齋藤でございます。どうもありがとうございます。私もちょうどオープンの時に見学に行きまして、コンパクトにまとまっているかなと思いましたが、角南先生のお話の中に出てきましたが、今、コロナ禍でなかなか会えないかもしれませんが、今後は、いかにMaOI-PARCに人が集まってきて、そこで議論ができるかということが一つポイントなのかなと思います。それから吉崎先生のお話にありましたように、やはり研究材料としての魚ということを考えますと、天然のものもいいのですが、ある程度管理できるという意味では陸上である程度養殖しながら、必要な研究材料を整えるという、そういう仕組みを作る必要があるのかなと思います。そして地元の応援という意味では、やはり企業の方々がMaOIと一緒に研究していくと、こういう成果があって、極端なこと言えば収益につながる。そこがなければ産業として成り立たないかと思しますので、そういうふうな流れができ上がっていくといいなと思います。そのためには、ある程度の土地と資金が必要かなと思います。県の方は、かなり資金はご準備いただけるのかと思うんですけども、土地をどうするかという問題があると思います。港湾の関係では県が握っていますので、県が把握しているところの土地はたくさんあるかと思えます。また、東海大学にも若干の土地がありますので、ぜひそういったことも活用していただければなと思います。どうぞよろしくをお願いします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。今の土地って難しいんですけども、何か事務局の方でコメントございますでしょうか。もしありましたらまた後でお願いします。今日はあれですね、水産技研の先生もこられているんですかね県の。何か今の一連の話でもコメントがあれば。

(静岡県水産・海洋技術研究所 所長 岡本一利)

県の水技研の岡本と申します。先ほどの吉崎先生、齋藤先生のお話の中でですね、あの魚の材料としてっていう話がありますが、実際、いろんな先生方とですね、共同研究させていただいて、今、革新的な技術開発を行っているところです。うちの方の飼育施設もですね活用していただいて、今後、魚まるごとというお話がありましたけれども、そういうような研究に進展していければいいかなと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。また水技研は新しい船も作っていただくということで、それも期待したいと思います。話がですね、水産の話になりましたので、ここで産業界からも、特に水産系の方々来ていただいていますので、お話を伺いたく存じます。水産系の企業の方が、はごろもフーズ様といなば食品様がこられていますので、順番にご発言いただければよろしいですか。勝亦委員おねがいでできますでしょうか。

(はごろもフーズ株式会社 理事 勝亦正浩)

はい。ご存じのとおり、このコロナ禍の中でですね、なかなか通常の業務がやれないっていう全体の動きになっています。今すでに、大学の方と工業技術研究所さんといろいろこのテ

ーマでやらせていただいているんですけど、今のところ特に進捗に問題ないんですけど、今後の流れとして、どういう状況が続くかっていうところで、少し危惧はしております。できるだけスケジュールにずれがないように進めていきたいなというふうに思っていますが、その辺、全体のスケジュールリングをどの段階での見直しをするかっていうところも、ちょっと考えていきたいなというふうに思っております。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。プロジェクトの成果を期待しますのでよろしく申し上げます。いなば食品の加藤様、いらっしゃいますか。

(いなば食品株式会社 執行役員 加藤文克)

私どもはですね、基礎研究分野をもたない加工メーカーとして、この取組に非常に期待しております。なかなかコロナ禍の中でですね、動きができないということもありますけど、ひとつ今売り先、いわゆる販売先とお話する中で、今後非常に時代が変わってですね、新しい商品、取組ですね期待されています。同時に今世界的にいわれる、資源の永続性、SDGs っていうコンセプトでございますけれども、そういったところに対するですね、水産製品の取組についてもですね、非常に期待されるということもあります。そういったところも含めてですね、このMaOI のですね。私どもも取組に入っていきたいと思っておりますので、お願いします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。具体的なプロジェクトに発展していただければよいと思います。もう一つですね、県の漁業協同組合連合会の高瀬委員に来ていただいておりますけど、ご発言お願いしてよろしいでしょうか。

(静岡県漁業協同組合連合会 指導部長兼漁業振興課長 高瀬進)

はい。漁業協同組合連合会の高瀬でございます。ご指名ありがとうございます。やはりですね、オープンデータ、BISHOPですね、その部分でですね、やはりデータをどうやって使っていただくかという中で、昨今、漁業資源がですね、非常に悪い状況が継続しております。サクラエビしかりキンメダイしかりなんですけども、そういう部分で原因の解明ですとか、そういうところですね、データを上手に使っていただく。県の水産・海洋技術研究所が非常にですね、重点をもってですね、取り組んでいただけるというふうに承知をしているところでございます。

それからですね、資料の8ページにございますけども 齋藤先生からもご紹介がありましたけれども、そのように資源が少ない部分っていうのはですね、新しい技術を持ってですね、養殖、新魚種、そういうものをやって、取り組んでいただく必要があるかと思っておりますけれども、近年ですね、やはり温暖化が進みまして、静岡の海でもですね、かなり南方系の魚がみられるようになってきております。一方でですね、それがいいか悪いかという問題もございますけども、例えばですね、具体的にお話申し上げますと、非常に利用価値の高いハタ類ですね、そういうものが非常に多くなってきているものですから、そういうものを上手に養殖できる技術、それをですね、水技研それから温水研究センター共同でですね、進めていただくのはよろしいかなというふうに思います。

それと先ほど橋本先生からご紹介あった通りで、新しい駿河丸、これから建造、来年の4月に向けてですね、出来ていくかと思っておりますけども、業界非常にですね、期待をしております。浅いところから深いところまで、非常に操作・調査ができるような装備を準備しているとお伺いしておりますので、そういう船もですね、上手に使っていただく、その一方でですね、焼津

に深層水の施設がございます。深層水はですね、日産2,000トンの水を2層から上げております。これは随時、水が上がっておりますので、定期的というよりも連続的なデータをとれる施設でございますので、やはり有効に使っていただいて、データの蓄積をですね、行っていくのが必要かなというふうに思います。以上でございます。ありがとうございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。ちょっと深層水の話は、もしよろしければ、県から何かコメントあれば聞きたいんですけども、今おっしゃっていた駿河湾の海況データですね、これBISHOPも対象にしていますけれども、ちょっとこのBISHOPの目標を議論する時に、いろいろ私も見てみたんですけども、やっぱりいろんなデータがですね、紙で配られていたりですね、今DXとってデジタル庁が、いろいろ頑張っているんですけども、こういう県のせっかく持っているデータをリアルタイム、オンタイムで漁業関係者に送るということがなかなかまだできていないようでございますし、これはデータのとり方の問題も、あつてそんな簡単ではないと承知しておりますけれども。こういう水産のDX化において、MaOIが何かお手伝いできればといいなとその時思いました。また関係者とお話しさせていただきたいと思います。深層水の方は何かコメントございますか。

(静岡県水産・海洋技術研究所 所長 岡本一利)

当研究所では深層水の施設を保有しております、なかなか他のところにはない希有な施設でございます。そこで水のデータなどを実はとっております。また、このMaOIのプロジェクトのですね、生分解性プラスチックの件で共同研究をやっている東工大の柘植先生の方ともですね、その菌の研究を共同で今実施しているところでございます。また先ほどの高瀬委員からのハタ類等々のお話ございましたが、静岡県の水産にとってもですね、クエまたは浜名湖に幻のカニといわれているノコギリガザミ・ドウマン、そのへんの研究もスタートする予定でございますので、引き続きよろしく願いいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。楽しみでございますね。今ご議論いただいたように、ちょっと水産系の方がですね、具体的な進展も期待できるところに来ているかなと思いますが、一方でこのプロジェクトの最初のきっかけとなりました、マリンバイオをもう少しアカデミックな微生物も含めた利用というところで、まだこれから具体的な話が進んでいくんじゃないかと思いますが、何かあの先生方にもですね、コメントいただきたいと思いますが、今日の農工大の田中先生こられますので、今年、昨年から延期したマリンバイオ学会を今度、農工大で開催するというところでございますので、田中先生から、一言コメントいただきますでしょうか。

(東京農工大学 工学研究院 教授 田中剛)

はい農工大の田中でございます。そうですね、今年度から私たちもプロジェクトに参画させていただいて色々状況をキャッチアップさせていただいたところで、そういった内容についても、延期になってしまったんですが、今年5月に農工大でオンラインになるかもしれませんけれども、マリンバイオ学会でこういった取組についても紹介させていただいて、いろんなネットワーク構築の場とさせていただきたいと思っています。私どもとしては、海産資源物の中の食であったり、あるいは微生物資源以外で、海洋資源でまだ同定されていないような甲殻類等の、実は材料開発の方にも力を入れたいと思っております、そういったところも生物資源のライブラリーみたいなものもあると思うんですが、それに加えて、いろいろな生物資源のバ

イオミネラルであったり、酵素式のような新たな構造のライブラリー等の構築にも貢献させていただきたいと思っていて、生物資源以外にも鉱物資源の作成という意味でも貢献できるのではないかと。そういうところも学会で議論していきたいと思えますし、関連するものとして、そちらは応用というよりも削除という意味で、マイクロプラスチック問題に関しては、農工大、全学的に取り組んでいて、プラスチックフリーといえますか、ゼロキャンペーンを2年ほど前から取り組んでいて、少なくとも学内ではペットボトルの販売機はすべてなくなっており、各所にペットボトルのかわりになるようなもので水をくめるような施設も整備されていますので、そういった取り組みも含めて、こうした場でいろいろと情報共有させていただきたいと思っております。以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。ぜひ学会にも参加させていただきたいと思っております。じゃあ、静岡大学の河岸先生がいられていますので、今の関係でも結構ですけどもコメントいただけますでしょうか。

(静岡大学 グリーン科学技術研究所 教授 河岸洋和)

はい、河岸です。それで今いろいろお話聞いたところ、いろいろやっぱりすごく、いろんなことが進んでいて、特にデータベースとか、ライブラリーとかそういうところはあるんですけども、僕の専門自体が化学なものですから、それでそれを含めていろいろ考えるところにおいて、今までいろんなこのプロジェクトの目標の中でちょっと長期的目標ということで創薬っていうところがあって、そこに私がこの委員としても注目していますし、私自身も実は、例えばこのシーズ研究の14ページの魚類成分による失明疾患の成分っていう研究にかかわってまして、慶応大学の医学部の栗原先生と一緒に水産研究所の三者でやっているんですけども。そういう意味では、研究者としてやってるその内容は、結構いい線までいってまして、そういう単純な仕事、非常にウェットな古風な仕事なんですけども、魚からそういう活性を示す化合物を見つけるっていう研究で、もうちょっとで、結果が出そうなところもあるんで、それが将来的に医薬までかもういかどうかわかりませんが、論文レベルにはもちろんなると思えますし、医薬になる可能性も結構あると。どっちかという、やっぱり個々の研究者がいかにか熱心にやるかということなんですけれども、そういう意味でこの慶応大学のチームは、栗原先生って実際メディカルドクターで眼科医であり、基礎研究をやられているということで非常にその観点でやっていて、動物実験で全部やっているんで、かなりいい線までいっています。そういうところで、このプロジェクトがですね、短期的な目標と長期的な目標を両立しながらやっていくっていう意味で、非常にいいプロジェクトになりつつあるなど。いや、少しちょっと自画自賛とかその我田引水的なところもありますけども、そういう感想を持っています。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。その関係もありますけども、県立大の菅先生も今日来られています、何か、コメントございますか。

(静岡県立大学 薬学部 教授 菅敏幸)

薬学的な観点から、意見を述べさせてもらおうと、ライブラリーも実施してきたということで、これからかなというふうには思います。あと資源とかですね、そのへんでどうしていくかということで、できると思います。もう少し簡単なアッセイ系とかで、全体をこうスクリーニングするとか、そういうことができるようになるか、スクリーニングの専門家がファルマバレーが

おりますが、そういうものがもう少しできればいいのかなというふうに思います。個人的にはJAMSTECのサンプルが非常に魅力的かなと思っていますけれども、現在のところそんなところでは。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。そうですね。ファルマともいろいろ協力していかなきゃいけないんですけども、まだ、あとでMaOIからも話しお聞きしますけども、研究所が立ち上がったばかりで、そこまで体制ができていないところもありますし、JAMSTEC様とは理事長が一緒なので、いろいろ協力をいただきたいと思うんですね。今日出口先生来られていますけれども、出口先生何かコメントございますか。

(海洋研究開発機構 生命理工学センター長 出口茂)

出口です。今日はお話を伺いして、プロジェクトが立ち上がりとしては素晴らしい進捗状況だと思っていて、もうプロジェクトの立ち上げとしてはA評価なのではないかと思って聞いていました。

で、立ち上がって今後どうするかを考える上では、多分最初に、竹山先生が言われたように、これをなぜ静岡県、静岡県らしさをちゃんと売り出すっていうことがすごく重要だと思います。それが多分一番重要になってくるのが実はBISHOPだと思うんですけど、BISHOPは要は書かれているように、静岡県をもうちょっと広くバイオ情報を広く発信するイメージにみたいになってくると思うので、そうなる、じゃこの駿河湾って他と何が違うんですかっていうのをちゃんときっちり提示する必要があると思うんですね。これは実はJAMSTECの深海のバイオリソースもそうで、深海っていうすごく立ったキャラがあるんですけど、それでもやっぱり、特に企業の方々と話をすると、深海というのはわかりますけど、深海の微生物であればどういふものがとれてくるんですかって必ず聞かれてくるんですよ。同じことが多分、駿河湾でも言えるようになると、コンテンツとしてはすごく強力になると思うので、そこを、多分これはアカデミアの協力が必要になると思いますけど、そういう体制を組んで駿河湾のキャラクターを確立するか、そういうものは必要であるかなと思っていました。

一つ、これは細かいですけど、目標設定というところで、ライブラリーの利用件数30件っていうのは、これ野心的な目標と思ったんですけど、これに関しては多分、これはJAMSTECのライブラリーもそうですけど、JAMSTECのライブラリーは、もともとはアカデミアの方に使っていたことを想定していたものなんですけど、それを産業界の人に使っていただこうとすると、実は産業界がライブラリーに求めるものと、アカデミアが求めるものってかなり違うんですね。例えばJAMSTECは深海の深いところから取れたサンプルとかはたくさんもっているんですけど、それはアカデミアの方だとすごく面白いので是非使わせてくださいと大概言われるんですけど、それが産業界の方になると、そんな珍しいサンプルはどうでもいいので、もっと浅いところのサンプルでもいいということが意外と多い。このMaOIのライブラリーも多分、同じような話になると思うので、理想的には産業界のニーズを聞き取って、産業界が使いやすいようなライブラリーあるいは提供する仕組みを努力して作って、その結果として年間30件行きました、みたいなお話にされた方が評価するときにはすごく良い評価が得られるような気がしました。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。事務局なんか本件コメントありますか。大分議論した上で取り決めていただいたので、特にありませんか。

(MaOI機構 専務理事兼事務局長 渡邊眞一郎)

MaOI機構の専務理事、渡邊でございますけれども、ライブラリー、BISHOPについてご指摘ご意見いただきましてありがとうございます。私どもの研究所長になっていただいております五條堀先生からもですね、アウトプットをどう出していくのか、活用していただけるようなデータベースにしていくのが重要であると、この点については厳しくご指導をいただいております。現在、構築中ではございますけれども、どういうサンプルを集めていくのか、それをどう出していくのがいいのかというあたりにつきましては、今、出口先生からもご指摘いただきました通り、ニーズ側といいますか企業様の声もいろいろ伺いながら、今後、整備して参りたいというふうに考えております。ご指摘ありがとうございます。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。あとまだアカデミアから何人かご意見いただきたいんですけども、私と同じ東工大の柳田先生、最初の時は准教授でご参加いただき、教授になられたんですけども。柳田先生、何か一言いただけますでしょうか。

(東京工業大学 科学技術創成研究院 教授 柳田保子)

はい柳田です。本日の資料を拝見しまして、お話しも伺いまして、このコロナ禍にもかわらず、MaOIプロジェクトが順調に進んでいるということで大変喜ばしいことと思っております。今後ですね、この社会情勢が回復するにということで、今、進んできておりますが、回復して参りますと、その際には、特に経済活動の活性化っていうところが非常に重要になってくると思いますので、今日、拝見いたしました中でも、戦略5のですね産学官連携で産業応用で推進していくというところは、今後ますます重要なところになってくるかと考えております。なので、こういうことで、駿河湾の資源活用などで進んでいけたらよいのではと考えております。今後の活動に大変期待して注目しております。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。引き続きご協力よろしく願いいたします。今日は理研の守屋先生と小田切先生にも委員として来ていただいておりますけれども、ここまでのところで何かコメントいただけますでしょうか。守屋先生からお願いしてもよろしいですか。

(理化学研究所 環境資源科学研究センター 専任研究員 守屋繁春)

はい、守屋です。僕の方では、いろいろとその発足段階のところで、いくつか提案させてもらったことがあったんですけども、そういったことがほぼ全部もり込まれていて、びっくりすると同時に、非常に将来的に、楽しみだなと思っています。

僕自身はどちらかというと陸原生の生き物を、ありていに言うとシロアリなんですけど、仕事をしているんですが、例えば陸原生のタンパク質を海の方に移す。例えば、魚粉が少なくなってきたという問題に対して、陸のバイオマスも海にもっていくということについては、前回か前々回ちょっと話したこともあると思いますけど、先ほどのAOIとMaOIの連携っていうところは、今後一つ、今日の説明ではあまりなかったので、ピックアップしていただけないかというふうに考えました。

あと一つディティールなんですけれども、BISHOPのデータベースすごくいいなと思ったんですけども、ここに最近、森林の環境情報っていうのを、具体的に言うとラズパイとか使って集めてきて、そいつを僕の場合、ドロップボックスに上げて、リナックスのサーバーで解析す

るっていうことしているんですけども。環境データベースを使う場合って、それらリアルタイムでのデータ収集と解析っていうものあり得ると思うんですね。その辺のこと考えられていることはよく分からないんですけども、もし考えてらっしゃるようでしたら、データベースだけではなくて、研究者の人が使えるような計算サーバーのような機能もちょっと考えてもらえると。例えば将来的に資源管理とか資源予測をするときには、シミュレーションなどもしなくちゃいけないと思うんですけども、当然でかいシミュレーションは小さなサーバーでは動かないので、それこそJAMSTECさんとか、弊所のでかいコンピューター使う必要があるかもしれませんが、その手前のところでは、やっぱり研究者がワイワイ実際に計算サーバーで、これいいかもねって感じで試すことが重要なと思うので、そういうふうな計算サーバーの機能についても少し考えていただけるといいかなと思いました。僕からは以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。じゃあ、サーバーの件は後で事務局からコメントがあればお願いします。小田切先生なにかコメントかご質問ございますか。

(理化学研究所 光量子工学研究センター 研究員 小田切正人)

理化学研究所AOI-PARC、小田切です。私の方も先日、AOI機構の岩城専務様と一緒に、MaOI-PARC内覧会にいかせていただき、非常に順調に立ち上がっていることということ感心させていただきました。で実際に事業化のことにしても、プロジェクトとしてご一緒させていただいているんですが、我々のような、実際魚を使ってみたいという研究を考えている研究機関に関してですが、吉崎先生や齋藤先生が言ったみたいに、魚まるごと対象としたってことをやりたいと思うんですが、なかなかその魚を飼育するということが不慣れなもので、こんな環境下ではちょっと難しいんですが、今後のオンサイトでのそういう技術講習会も企画していただけると、非常に助かるということを思いました。以上です。今後よろしくお願いします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい。AOIとは様々な形で、今後も協力というとかですね、先ほど守屋先生がおっしゃっていたようなところもありますので、またご相談させていただきたいと思います。もう一人、理工科大では地方創生担当の久留島部長に来ていただいておりますけども、久留島部長、何かコメントいただけますでしょうか。

(静岡理工科大学 総務部長 久留島康仁)

どうもありがとうございます。今回の会議資料を見させていただき、このコロナ禍でここまで取組みが進んでいたのかという、関係者でありながら具体的にはあまり認識しおらず、大変申し訳なく思いました。

私からは、個人的に感じたことですが、MaOIの取組みは国際的な分野も含めた研究開発ということも念頭にしているんだろうなっていうことは承知しています。また、静岡県が主導した取組みであるため、県の新たな、もしくは既存の産業を振興するというような観点での研究開発を短期・中期・長期に分けて活動、取組みもなされていることもわかります。

その中で、この前、研究開発支援事業の公募がなされ、採択された研究課題について今後、研究開発が進められていくと思うのですが、今回、不選定になった研究課題の中でも、次回につなげる、もしくは新たな業につながる研究課題もあったと思っています。評価の低かった部分のフォローアップをMaOIさんのコーディネーターさんが中心になって行っていただくことで、次年度以降の研究開発支援事業として選定いただくことにつながればありがたいと思います。

また、今日伊東センター長がお見えだと思いますが、フォトンバレーセンターではA-SAPという事業で、光・電子技術の活用に特化した研究開発支援を行っていて、かなり長く、7期～8期という期間で、既に数十件の支援を行っています。こういう実績がある中で、MaOIにおいても、例えば短期的な研究開発、中堅・中小企業を巻き込んだ形として、企業が困っていることを、アカデミアが支援をして、最終製品までいかななくても、プロセスだとか、現状の課題を解決するという意味で、類似のスキームを導入してみたらどうでしょうか。こういう取組みもいいのではないかと。今後こういうことも検討されると、静岡県全体のいろいろな拠点が連携しながら、良い取組みが横展開できる、発展性が見えてくると感じた次第です。

本プロジェクトの計画に基づいて本年度の活動が進展していることは素晴らしいことで、本当に関係者の皆さんの努力に感謝している次第です。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。ちょっとコーディネーターの話は大事でして、久留島部長にもご指導いただきたいと思っておりますけれども、後でちょっと渡邊専務から一言お願いしたいと思っております。それから、フォトンバレーはじめですね、既存のプロジェクトとの協力もさらに進めていきたいと考えていただきたいと思います。さきに産業界の協力では、ご指導いただいております早稲田の矢澤先生に、お待たせしましたが、一言お願いできますでしょうか。

(早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 研究院 教授 矢澤一良)

早稲田大学の矢澤です。ありがとうございます。質問が1点あります。それからコメントといますか、参考になればと思います。

質問ですが、産と学を結びつける、やっぱり最終的な製品化っていうことを考える上で必要なことは特許戦略だと思います。ですので、新しい研究があれば、新しい技術が開発されれば、当然、新規性が生まれる。そこにおいて、特許性が出てきた場合、MaOIではどのような対応をするかということはこの質問です。これがあることによって産業界がより進むであろうと思っております。

あとはコメントなんですけども、海の利用という意味では、海からエネルギーをつくれないうかということで、これはもう水力もありますし、海洋風力発電、あるいは温度差、潮流そういったものからクリーンなエネルギーができるはずですので、そういったことの工学系のことだと思うんですけども、そういう部門、リサーチがあってもいいかなと思っております。

もう一つコメントなんですけども、産官学金という非常に素晴らしいタグになっていると思うんですけども、静岡県だけではなくてですね、国内各県やはりいろいろ努力されていると思います、ですので、そういったところから情報収集という意味ではやはり産官学金、ジャーナリスト、ジャーナリズムの部門が参加されてもいいと思うんですね。そういった方をお呼びして、講演していただくということは可能なんですけども、じゃ誰がちゃんと聞いていますかっていう話ですね。聞いてくれている人がみんな聞いてくれているといいんですが、そうでもない場合には、せっかくいい講演をしていただいても、伝わらないというのが現状ではないかと僕は思います。したがって最初からジャーナリズムの方をこのメンバーの中に入れていただくということが大事だということでございます。

諸先生方にはいつもお世話になっております、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

矢澤先生ありがとうございます。いくつかコメントいただきましたけれども、ジャーナリズ

ムについてはですねこれ当初は日経新聞静岡支社で、今は静岡新聞の方で、何回か取り上げていただいているということでございます。この間のオープニングには、NHKにも来ていただいて結構長く報道されていただきましたが、おっしゃるようになりますね、ジャーナリストの立場からのご意見というの、報道をただしていただくだけでなく、必要だと思えます。また県の方で、ご検討いただければと思えます。それから、質問は知財の件でよろしいでしょうか。実は知財の取り組みについてはですね、ジェネラルなルールをちゃんと持ってやんなくてはならないんですけど、まだ私の理解では、ちゃんと整備できていないと思えますので、もうプロジェクトが始まっているので、一般的なルールしかないと思えますので、ちょっと先生方と相談しながら、そこは作っていただきたいと考えております。

エネルギーの件もおっしゃる通りで、今MaOI-PARCがある清水も含めてですね、あるいは駿河湾の中で洋上発電、洋上風力どうするんだという議論もずっと進んでいると聞いておりますけれども、非常に重要な国としての重要な課題でございますので、MaOIとしても一応エネルギーという柱も環境・エネルギーで1本立っていますので、今後ご検討いただきたいと思えます。今のところまだ具体的にございませぬけれども、海洋に關係するエネルギーはおっしゃるとおりたくさんございませぬので、ぜひご検討いただきたいと思えます。なんか事務局の方で今のコメントで、何かお答えすることございませぬか。

(事務局)

今後、検討して参りたいと思えます。ありがとうございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

コーディネーターの件は、引き続き渡邊専務の方でよろしくお願ひします。それでは県のいろんな既存のですね、先輩方といひませぬか、組織と協力をすべきというご発言がございませぬので、順番に県の産業振興財団の池田専務理事はじめですね、ファルマあるいは、フーズ・サイエンス、フォトンから一言ずつ、ご意見いただきたいと思えますけれども。まず池田専務理事お願ひできますでしょうか。

(静岡県産業振興財団 副理事長兼専務理事 池田和久)

私、去年の3月まで県の方に勤めておりましたけれども、平成19年に商工労働部と農林水産部が一緒になりまして、その準備に関わっていたものですから、こういった形で農林水産業関係と商工業関係の方が、一緒に会議をするというのは非常に感無量なところがございませぬ。私がちょっとお話ししたいのは、やはりMaOI-PARCのですね、仕事の川上・川下っていう言い方が正しいかどうかわかりませぬけれども、川下に行くにしたがって先ほどちょっと話が出ましたが、ファルマであるとかフーズとの仕事との関連が出てきますので、連携の方よろしくお願ひしたいということとですね。あと、やはり豊かな海がなくなってしまうのは元も子もないものですから、川上に当たる資源の維持管理的な部分、サステイナブルへの取組っていうんですかね、そういうものにも、ちょっと力を入れていただきたいなど。ちょっと希望でございませぬけれども、以上でございませぬ。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。引き続きファルマの大須賀専務お願ひしてもよろしいでしょうか。

(ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター 副理事長兼専務理事 大須賀淑)

郎)

はい、まずはですね順調に滑り出したようで、心よりお喜び申し上げたいというふうに思います。同じ県の産業支援機関として、これから連携・協力しながら、歩んでいきたいというふうに思っております。特に私どもファルマバレーセンターはですね、静岡県の東部の企業情報蓄積ですとか、そうした企業とのですね、コネクション、こうしたものも強いものがございしますので、その点でMaOI-PARCさんにですね、ご貢献できるのではないかなと考えております。また創薬、重点事業になっている創薬なんですけど、実は私どもの方もですね、12万件の化合物のライブラリーを持っておりまして、過去10数年、創薬に携わってきたわけでございますけれども、そういった経験がですね、これから始動していくMaOI-PARCの創薬事業にお役に立てるのではないかなというふうに思っております。ただ創薬はですね、私共過去10数年やってきても、まだその商品ができないと。そういう非常にハードルが高く、息の長い事業になりますので、一步一步、実績を積み重ねて、長い目で見て進めていきたいというふうに思っております。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。山口総長にも、厳しく言われておりますので、ぜひ頑張りたいと思います。次に静岡のフーズサイエンスセンターの望月センター長お願いできますでしょうか。

(静岡県産業振興財団 フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター 望月誠)

はい。フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの望月でございます。私の方からはですね、一つお願いなんですけど、この4月に静岡県の社会健康医学大学院大学が開学されるわけで、こちらの方にビックデータの解析なんかをされる先生方もいらっしゃるんで、このプロジェクトの重点テーマが健康長寿ということでありますので、またこの大学院大学の先生方にもですね、是非加わっていただければありがたいなと思っております。いずれにしてもフーズの関係は、今までもMaOIさんとはですね、連携をしてきていますし、また今後もですね、化粧品も含めてなんですけど、ぜひですね国のプロジェクトの獲得、こういったものにですね一緒にあって、できればありがたいなと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。静岡の新しい大学院大学も私ども期待しておりますので、ちょっと一緒に何か検討していきたいと思っております。ありがとうございます。先ほどご紹介もありましたフォトンバレーの件で伊東センター長ですね。お願いできますでしょうか。

(浜松地域イノベーション推進機構 フォトンバレーセンター長 伊東幸宏)

はい。伊東でございます。今日の話ずっと聞いていて、もともと大学人で今、産業支援、中小企業の方と一緒にやっているような立場で見ますと、まだ何かアカデミアの会議だなという印象ですね。で、やっぱり産業にしても、テックプッシュのやり方が中心ですよね。先ほど久留島さんからA-SAPっていう話でましたけど、A-SAPについてはもうあまり詳しくここではお話ししませんけれども、もっと一般の中小企業とかの人たちに、マリンバイオの可能性っていうものを知っていただくような試みっていうのはもっと必要なんじゃないですかというふうに思うんです。我々フォトンの場合には光技術というものをキー・イネーブル・テクノロジーと位置付けて、光の可能性っていうものをもう少し一般的な方々に認知してもらうところからスタートしているんですね。マリンバイオに関してももっとそういう、働きかけっていう

のがいるんじゃないかなというふうな気がいたします。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。事務局から今の件についてコメントありますか。

(MaOI機構 専務理事兼事務局長 渡邊眞一郎)

すいません。専務理事の渡邊から少しお話をさせていただいてよろしいでしょうか。先ほど久留島先生の方からコーディネーターの活用というお話をいただいております。現在の常勤、非常勤合わせてコーディネーター5名を組織の中で雇用してございまして、お二方とも、特に今伊東先生からもご指摘いただきました通り、一般の企業の皆様の課題、あるいは新しい取組へのご期待みたいなのところに対して、どう応えていけるとか、それから、そういったものに対して、アカデミアの先生方のご研究なりを結びつけていけるのかといったところが、我々のミッションの大きな柱の一つというふうに考えてございます。今年度はですねレポートの中でも一部書かせていただきましたけれども、特に信用金庫様と緊密に連携をさせていただきまして、各金庫様のご営業担当が企業回りをされて、いろいろと情報収集をされてらっしゃる。そんな中で、ここを何とかしたいんだ、あるいはこんなもの作ってみたいんだというお取組の声についてはですね、かなり積極的に情報を我々に上げていただいております、そこを早速ですね、出前といいますか、押しかけていってですね、お話を伺って、お役に立てる局面があるかどうかみたいな活動をさせていただいている。そんな手づくり的なですね、ことをしながら、MaOIの活動についても周知を図っていくという様な取組をしております。そうした意味で、アカデミアの先生方のご研究という大きな柱と、それからそれを実業にくっつけるっていう意味において、コーディネーターをフルに活用して、きめ細かく県内まわっていく、こういったことを今年度スタイルとして一つ見えたものですから、来年度はさらに充実をさせて参りたいとこのように考えている次第でございます。以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。ちょうどいい前振りをしていただいたので、今日は金融界からも何人か委員に来ていただいておりますが、今のその地域のコーディネーターとの連携の問題、それから、これ私から、特に県の方にはご検討をお願いしているんですけども、ファルマバレーも含めてですね、取組の最後の出口はやっぱりベンチャー、スタートアップだと思うんですが、どうも静岡県は浜松を除いてですね、そういうベンチャーに対する支援、特にベンチャーキャピタル、それからインキュベーションですね、これが少ないという指摘がありますので、ぜひ金融界にはですね、そういう大所高所からのそういうご支援を考えていただきたいし、それから先ほど、渡邊専務がおっしゃったように地元の企業に対するいろんなサポートを繋いでいただくという意味では、地域の銀行が非常に大事だと思いますので、順番にお聞きしたいと思いますが、まず名簿の逆から行きますけれども、しずおか焼津信用金庫の岩崎理事から何かご発言ございますでしょうか。

(しずおか焼津信用金庫 理事・業務サポート部長 岩崎浩季)

はい、岩崎でございます。MaOIプロジェクトに関しましてはですね、産学官金連携による産業応用の推進というポジションの中でですね、我々が尽力させていただく必要があるということでおりますけれども、研究開発の成果を産業につなげてですね、またその産業が次の研究開発の原資となるように循環させていくということの中で、金融機関がですね、コーディネーターの方と一緒に実際の現場のですね、事業者の方とのハブとなってですね、実際のそういった

その循環をですね、生み出していくという中で最前線でやっぱりかなりのですね、動きを起こしていく必要があるだろうなということには自覚しております。

特にですね、新製品の開発であるとか技術開発等への取組。助成金を含めてですね、そういったことの中で、我々がその求められているもの、これがですね、奇しくもコロナ禍からのですね、産業界の復活、またあわせてですね、地方創生という観点からもですね、先ほどお話しいただきましたベンチャーへの支援、インキュベーションに対する支援の取組、そのコロナ禍からの復活、ベンチャー、インキュベーションへの支援の強化、そういったその両方の側面からもですね、このプロジェクトの中で、金融機関がですね、助成金のご案内、またアレンジャーとして動き、そういったものがですね、急激にやっぱその必要性、もしくは我々の使命というものが急激にあがってきているなということを感じております。したがって今年、このプロジェクトに対する取組もですね、改めて我々もですね、真剣に取組をもう一度考え、強化させていただいて皆さんにですね、ぜひご指導をいただきながらですね、貢献していく方法をまた考えたいと思います。また、よろしく申し上げます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。ぜひいろいろご協力、ご支援をお願いしたいと思います。引き続き、静清信用金庫の山口部長、よろしく申し上げます。

(静清信用金庫 経営相談部 部長 山口豊)

静清信用金庫の山口でございます。今、お話しを聞いておまして、今後ですね、我々取引していただいている中小企業においても、新分野進出ですとか新業態とか業態の転換とか、新商品の開発を含めた動きに対して信用金庫としても、支援をしていく必要があろうかなというふうに考えております。で、17ページの産業応用の推進のページから事業化の成果も上がっているようございまして、今後、規模の大小に関係なく、新商品の創出案件に取り組むような、企業経営のニーズにつきましても、我々がコーディネーターにつなげていく取組、そういう取組が必要ではないか思いますし、また積極的にですね、コーディネーターの皆さんに相談できるような、情報収集を図っていきたいというふうに考えております。で、先ほど5人のコーディネーターがいらっしゃるとい話も聞いたんですけど、このコーディネーターの方々については、地区別ですとか、あとはその役割ですね、どのような形で、考えて実際行動されているのか、それを聞きたいということと、定期的な情報交換をするのをですね、もしつくっていただくと、非常に我々の情報もお客様に提供しやすくなりますし、定期的な情報交換の場を来年度以降、定期的に持っていただくと、助かります。以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。今の件で、事務局から何かございますか。

(MaOI機構 専務理事兼事務局長 渡邊眞一郎)

渡邊から申し上げます。力強い応援の言葉をいただきまして誠にありがとうございます。現状ですね、5人、1人常勤の統括しているものがございます。私も含めてですね、いろんなお話、案件につきましては統括の者がまずお話を伺いまして、それぞれが所在する地域あるいはその案件の内容によってですね、担当振り分けまして、お話の深堀をさせていただいております。ですので、まず、その総括責任者あるいは私のところまでご一報賜ればありがたいと思っておりますし、来年度以降の取組につきましてはまた改めて個別にご相談をさせていただきたい。いうふうに思っておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いをいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。引き続き、特に信金の地元ネットワークを持ってらっしゃるところには、ぜひ宿題をいただいて対応していただきたいと思います。次に清水銀行の正村部長、今回初めてだと思いますがコメントいただけますでしょうか。

(清水銀行 経営企画部 企画担当部長 正村直弘)

清水銀行の正村と申します。よろしくお願ひします。我々、地元金融機関に今できること、ご協力できることってところがやはり企業への支援ですとか金融面での支援等々、役割としてはあると思いますので、すいません私もちょっと今日初めて参加ということで、いろいろとそうご指導等々いただきながら、できることをしっかりと幅広く応援というか支援させていただければなと思っていますので、よろしくお願ひいたします。ちょっと短いですが、以上になります。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。金融界、最後に静銀の西尾様コメントいただけますでしょうか。

(静岡銀行 地方創成部 地方創生グループ長 西尾明浩)

はい。静岡銀行の西尾でございます。我々としましてはですね、今回、このマリンバイオをビジネスに結びつけるという試みにつきましては、おそらく世界的にも例のないものだろうと思っています。お取引先もですね、このコロナ禍にあってですね、いわゆるアンゾフの成長市場戦略の中で言うと、多角化とかですね新市場の開拓というところですね、かなりシフトされてきているというふうに思います。なので既存のビジネスでなく、新たなビジネスの分野に参入したいという意欲はかなりお客様の中にも広まってきておりますので、世界的にも結構希有なこういうマリンバイオの技術をビジネスに結び付けると。これ静岡発でやっていくというのを非常に期待しておりますので、我々としても可能な限りのご協力をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

ありがとうございます。一通り金融機関のご意見を伺いまして、今後ともいろんなご協力をいただければいいので、事務局を含めてですね、ご対応をお願いしたいと思います。引き続き産業界の皆様からもう少しご意見いただきたいと思うので、鈴与総合研究所の中村部長からですね、一言ずつお願いできますでしょうか。

(株式会社鈴与総合研究所 管理部長 中村壘)

鈴与総合研究所の中村でございます。よろしくお願ひいたします。本日初めてですので、いろいろ勉強させていただきながら、いろんな話を聞かせていただきましたけれども、私どもがおります清水という地ではかつてですね、マグロの缶詰を世界に輸出した、今日はごろもさんやいなばさんがいらっしゃいますけれども、そういう産業創出があつてですね、それはもう当然、マリンのところから発生したわけです。またですね、マグロの内臓からですねインスリンを生成するというのも清水のところで、そういう産業創出がされたということで、海を関連した産業創出っていうのは非常に重要なことだなというふうに感じております。そんな中でですね、このマリンバイオのMaOIのですね、活動がですね、世界にここから発信するようなですね、そういう場になればなという期待を持って本日聞かせていただきました。今日は初めてで

なかなか感想程度しか言えないんですけども、ありがとうございました。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい。引き続きよろしく申し上げます。はい。では県の商工会議所連合会の中村専務理事をお願いします。

(静岡県商工会議所連合会 専務理事 中村)

商工会議所の中村でございます。私ら経済団体としての感想ということですが、今日です。産学官金連携による産業応用の推進ということで、県産アカモクとマグロを使用した高保湿化粧水、それから、サバ発酵調味料によるハラール対応サバラーメン等の事例が紹介されて、着実に成果に結びついていることで、大変頼もしく感じた次第でございます。

ご案内の通り、今回コロナ禍で県内の中小・小規模事業者においても甚大な被害を受けているわけですが、こういった企業が生き残ってですね、今持っている技術や雇用を守っていくためにはですね、やはりwithコロナ・afterコロナ時代の消費者の生活様式・行動様式の変化を踏まえた新たなビジネスモデルの転換の取組も必要になってくるかと思えます。で、これは先ほど静岡銀行の西尾グループ長もおっしゃった事とダブるんですけども、やっぱり新たなビジネスモデルの転換という意味です。事業転換、事業再編ということに向けてですね、このマリンバイオプロジェクトが一つの成長ドライバーとして機能していくことを大変期待しておりますし、また、こうした各企業の取組についてもですね、県内の十ある商工会議所の会員企業の方に情報発信等もさせていただければと思っております。私からは以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございました。続いて、県の商工会連合会の窪田専務理事をお願いします。

(静岡県商工会連合会 専務理事 窪田)

はい。商工会連合会の窪田でございます。私の方からは、マリンバイオというものに関しまして、県をはじめ、多くの専門家の方々が、一緒に連携して研究してくれるということに対して大きな期待をしております。特に我々の組織は、中小・小規模企業という小さい企業の集まりでございますが、この研究が新産業の発生でありますとか、地域の活性化に結びついていくと、そういう記載もございまして、この中小・小規模の企業の我々が、このプロジェクトにどのように関与していったらよいのか、その辺もですね、非常にこのプロジェクトに期待していることであります。ですからこれからもですね、ぜひこれに協力していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ぜひよろしくお願いいたします。続いて県の中小企業団体中央会の今日は代理でございますけども、佐塚様ご発言いただけますでしょうか。

(中小企業団体中央会 佐塚専務理事)

中小企業団体中央会の佐塚です。今までの議論を踏まえて感想でございますが、プロジェクトを盛り上げていくためには、地域の企業の参加が欠かせないと思えます。そうしますと、やはり身近な成果を出していくことが短期的には有効な戦略かなと考えます。今回のプロジェクトの戦略の5の部分ですが、産学官金連携での産業応用の推進の中で、短中期と中長期とプ

プロジェクトの性格を分けて、「成果を創出しながら」という部分が入っており、非常に素晴らしい観点だなと思いました。それから、来年度に向けてのアクションの中に、「事業化可能性調査・フィージビリティスタディーを支援する助成制度を創設する」とのことですが、そちらがいわゆる前裁きの位置づけになるのかなと思いますので、事業の活用を大いに期待したいと思いますし、そちらの施策のPRは、本会の会員組合に対してさせていただこうと思います。また、こちらにのらないものであったとしてもですね、他の中小企業向けの支援施策等々がございますので、そちらも活用しながら、プロジェクトをご支援をさせていただきたいと思ます。以上でございます。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。引き続きですね、これからますます連携しないといけない、静岡市の海洋産業クラスター協議会の会長でいらっしゃいます上妻委員をお願いします。

(静岡市海洋産業クラスター協議会 会長 上妻親司)

はい。よろしいでしょうか。静岡市海洋産業クラスター協議会の上妻でございます。最初にちょっとお礼を申し上げたいんですけども、我々も同じような、海洋関係の新産業に対してのスタートを狙いながら、いろんな活動をさせてもらっていますけども、その中で皆様方もご存じの駿河湾のサクラエビの問題があるんですね。これに関しては、もちろん漁獲量が減っているという内容のもとに対してのいろんな原因追及等々もやらなくちゃいかんのですけども、とりあえず今のサクラエビがどんな状況で、海洋の中に分布しているのかということ調べるために、実は東海大学の先生を中心として、AIを使いながら、それをこうカメラで撮って、現在量を工夫しようと、そういう研究を今スタートしております。これに関しては、MaOIの機構の方からも、今年度から向こう3年間に渡って、事業資金を援助してもらいながら、一緒に連携してやるという形でやらせていただいておりますので、これに関しては、まずは御礼を申し上げたい。

それから一つ、こういう静岡市の中における、やっぱり事業として新しい事業をスタートさせるのが我々も一番、中心の狙いなんですけども、その中でいろんな取組をやっておりますけども、一部ありましたように、アカモクなんかの話も、我々なりに取り組んでいるところがある。そういう意味においてはいろんな知見をですね、前からお話し申し上げているように、MaOIの機構さんと我々のクラスター協議会との連携をうまくやりながら目的についてできるだけ早く到達して、新しい事業としてスタートできるような、そんなことをとにかくお願いしたいということで、これは今後のお願いとなりますけども、申し上げたいと思います。以上です。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。特に静岡市とはですね清水に今立地していることもあって、ますます関係が重要になってきますので、引き続き、色々ご相談させていただければと思いますし、今おっしゃっていた令和2年度の採択テーマですね、資料ですと14ページに入っていると思いますが、こういったプロジェクトで協議会とも連携してやっておりますので、こういったことが下から2番目のやつですね。これは由比の漁協が協力して入っていただいて、非常に意味画期的なプロジェクトだと思いますので、ぜひ成果がでるといいなというふうに思っております。そういう意味ではですね、ちょっと静岡市との連携も重要だと思いますので、今日、塩原本部長ではなくて代理の島田様に来ていただいておりますので、市として何か注文なり何なり頂ければと思いますが、よろしいでしょうか。

(静岡市海洋文化都市推進本部 係長 島田浩幸)

お世話になっております。静岡市役所島田と申します。よろしくお願いたします。今上妻会長からもおっしゃられた通りですね、MaOI機構の方におかれましては、今のサクラエビであるとかですね、サーモンとの関係ですとか、そこらへんで大変ご尽力いただいて、ご協力いただいているというところがございます。市としましても、市内か県内かというそのエリアの差はございますけれども、静岡における海洋産業の創出とかですね、促進といった面では目標的には同じところがございますので、今後とも連携を深めていってですね、市としても貢献できるところは貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

(東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 橋本正洋)

はい、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いたします。

これでですね、ご出席いただいている委員の先生方には、一通りご発言いただいたような気がするんですが、よろしいでしょうか。まだ、ご発言いただいてない方おられますか。大体時間になりましたので、もし最後に何か言い忘れたということがございましたら、発言お願いただけますか、委員の方からですね。よろしいでしょうか。はい。議事の進行にご協力いただきまして大変ありがとうございます。皆様から貴重なご意見をいただいてですね、このMaOIプロジェクトは皆さんご指摘の通り、スコープが非常に広くて、マリンバイオあるいは水産から始めてですね、医薬品、あるいはデータベースの構築とか、様々なスコープを、目的は一つなんですけども、進めながら、これまでは第1期としては非常に順調にきているということで、これはもう本当に県の方々あるいはMaOI機構の皆様のご努力だと思いますので、改めて感謝申し上げたいと思いますし、それから今日ご発言いただきました委員の先生方、あるいはいろんな団体の方々にもですね、様々なご協力をいただいてここまできているというふうに思います。

とりあえず今日はですね、来年度の計画等がございますので、そんなに大きな変化はございませんでしたが、ただ、これまでの委員会、戦略委員会での皆様のいろんなご指摘をですね、可能な限り踏まえて進めてきたということが今日かなり評価いただいたというふうに思います。もちろんまだ始まったばかりでございますし、BISHOPの活用の仕方あるいは個別の水産関係ですね、進め方についてはまだまだ検討事項がたくさんございますので、これについては引き続きご指導いただきたいと思ひますし、それから特に県の方々の企業、あるいはスタートアップの支援のようなことはですね、まだ途中でございますので、これはむしろ個別にですね、いろいろ相談いただいたりあるいはMaOI機構から伺ってしたりですね、ご支援できる範囲でやっていただきたいというふうに思ひます。

それでは、今日のいただいたご意見はですね、事務局で整理した上で、評価書に反映したいと思ひます。それから、本日ご発言できなかつたことがございましたら、お気軽に事務局の方に追加でお伝えください。全体的にですね、非常に高い評価をいただいたと思ひますけども。特に数値目標等については、ちょっとチャレンジングじゃないかというご指摘があつても私も実はそう思ふんですけども、こういった評価書及び達成目標設定につきましては、委員長の方で責任をもって取りまとめさせていただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

以上をもちまして、今回の討議につきましては終了したいと思ひます。本当に円滑な議事の進行にご協力いただきましてありがとうございます。残りの時間も短くなりましたけれども、事務局に任せたいと思ひますよろしくお願いたします。

(事務局)

はい。委員の皆様、長時間にわたるご議論、大変ありがとうございました。橋本委員長から

お話のありました通り、本日頂戴いたしました貴重なご意見につきましては、評価書に反映した上で、来年度以降のMa0Iプロジェクトの取組に反映させていただきます。それでは天野経済産業部長から一言お願いいたします。

(天野 静岡県経済産業部長)

はい。経済産業部長の天野でございます。本日は長時間にわたりまして、貴重なご意見ご提言をいただきまして誠にありがとうございました。非常に私自身もですね、ちょっと参考になるなというようなご意見がいっぱいありまして、これらの本日のですね、ご意見ご提言をしっかりとプロジェクトに反映させて参りたいと思っております。今後とも先生方のご指導ご鞭撻、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

以上